

第8回 松戸市2020年東京オリンピックパラリンピック

やさシティおもてなシティ推進会議

1. 日 時 平成29年11月15日(水) 10時30分～
2. 場 所 松戸市役所 新館5階 市民サロン
3. 出席者 委員11名のうち9名出席
4. 傍聴者 なし(傍聴希望者なし)
5. 会議経過 (1)開会 10:30
(2)長江会長挨拶
傍聴確認(事務局より傍聴者なしとの報告)
資料確認(配布漏れなし)
議事録署名確認(名簿順につき須田委員に依頼→了承)
(3)報告 事業進捗状況について
(4)閉会 11:50

6. 議事概要

○長江会長

本日の議事は平成29年度の事業進捗状況についてとなっており、今年度どのように進んでいるかを事務局から御説明いただきたいと思います。

それでは事務局、よろしく願いいたします。

(事務局から平成29年度の取り組み状況および今後の実施予定事業の報告)

○長江会長

ありがとうございました。それでは、ただいまの事務局からの説明に対して、委員の皆様のお意見あるいは感想でも構いませんし、こんなところがわからないという御質問でも構いませんので、よろしく願いいたします。いかがでしょうか。岡本さんのほうから。

○岡本委員

ドミニカ共和国と何か協定を結ばれた。

○事務局

昨年の6月に現地へ松戸市訪問団が行きまして、オリンピック委員会及びソフトボール競技連盟と事前キャンプを松戸市で行うということの基本的な合意に至りました。

○岡本委員

基本的な合意の協定を結ぶ。

○事務局

はい。これからどういう種目をといるところはありますが。

○岡本委員

ああ、そう。

○事務局

これからソフトボール競技以外の他協議を含めた誘致を実施したいといったところがございます。

○岡本委員

それから、七草マラソンに大使は出席してくれる。

○事務局

はい。

○岡本委員

選手は2人で、それはここに載っている選手なの。

○事務局

資料13、14ページのニコラエさんとコルネスキさんの2名です。力のある選手というのを聞いてございます。この2名と、ルーマニアの陸上競技連盟事務総長と在日ルーマニア大使もいらっしゃるということです。

○長江会長

それでは、松戸まつりでのPRもありましたので、薄葉委員のほうから何かございましたら、ぜひ。

○薄葉委員

特にはないです。十分松戸市には取り組んでいただいています。商工会議所というよりは、私個人の意見として、子どもたちへの取り組みである「夢の教室」についてすごいなど。

○事務局

小学校5年生の子どもたちに行っているのですが、5年生というのがちょうど心の変化が起こるという成長の時期で、いい時期だというふうにサッカー協会から聞いています。

○薄葉委員

それから、松戸市にこんなパラリンピック選手がいたとは信じられない。積極性があって、好きでがんばっていらっしゃるのはすごいよね。

○事務局

松戸出身でこういう方がいらっしゃるよというお話がございまして、積極的にオファーをかけたところ、快く応じていただきまして。競技用車いすを体験させてもらえるとか、さわらせてもらえるとか、思っていなかったところもあるんですけど、それを快く応じていただきまして大変よかったと思っております。

○薄葉委員

オリンピックに合わせてやってきた成果が出たんだと思います。私自身、そんなところですね。感想ですけど。

○長江会長

なかなか会場に足を運んでいただく方々にPRが行き届かないことがあって、パラリンピックに関しても、ちょっと少なかったんですけども、基本としてはデイリーニュースとか千葉テレビに取り上げられるとか、委員会の皆様方に新聞の報道も含めた形で、パブリシティに関しての報告書をつけています。伊藤委員いかがでしょうか。

○伊藤委員

ちょっと幾つかあるんですけど、今「夢の教室」についてお話があったんですけど、5年生というともう何クラスもあるんですけど、全ての子どもたちを、ある小学校で一度に対応できるような仕組みでされるのですか。

○事務局

学校の2時限、二つの時限で一つのプログラムになってございまして、例えば、学校の都合にもよるのですが、3クラスございましたら、1、2時限目は1組で、3、4は2組で、5、6で3組といったスケジュールで割り振っています。学校の都合によりまして、2日にわたる場合もありますし、1日で済むときもあります。

○伊藤委員

これは全部サッカー選手ですか。

○事務局

「夢の教室」は日本サッカー協会の企画でして、最初は元サッカー選手とかだったらいいんですけど、今は他種の競技のOBの方とか、現役の方もいらっしゃるようです。

○伊藤委員

じゃあ、学校によって、種目なり違うわけですか。

○事務局

はい。例えば水泳とかバスケとか、ラグビー、野球選手もいらしておられてスポーツ全般です。

○伊藤委員

それから、小金中学校英語部の生徒を対象にやっている活動で、せっかくいろいろ練習なり学習をやっておられるようなんですけども、実際に使う場では、3年後となりますとこの子たちは卒業してしまいます。対応できればいいんですけど、実際に使える場が提供できるといいなと思う。例えば、全く思いつきなのですが、今度の七草マラソンで有名な選手が来るので、この機会に、小金の英語部の人で有志というか子どもたちに来てもらって、実際に簡単な英語の通訳をする経験をしてもらうとか、あるいは、たしか東京マラソンか何かで非常に大規模な英語のボランティアを募集しますよね。あれは都民じゃないとだめなのかもわかりませんが、そういったところに送り込むとか、何かそういう実際に経験する場が提供できたらいい。子どもたちはどう思っているのかわかりませんが、そういうことをやってみたいという気持ちをもし持っておられるのであればそういう場をうちのほうでも考えたほうがいいのかなと。せっかく練習しても、もったいないという気がしますので。

それと、本番はどういうことを考えていらっしゃるか。本番ないしは直前キャンプにガイドとかをやってもらったりなど。まだ3年先のことですけど。

○事務局

目標としては、実際にオリンピックの年、事前キャンプの選手ですとか、それ以外の外国人観光客が来られた際にも、小金地区には小金中学校のボランティア隊がいますよということを発信して、小金については歴史・文化の地区なのでそういった観光名所を案内できるようになるというのを目標にしています。ですから、今、中学生にやっているんですが、まだ入り口なので現実的にはまだ通用しないレベルです。それを英語部には引き続き行ってもらい、卒業生を2020年にはまた招集してガイド隊をつくろうと、今はそんなようなイメージでおります。

○伊藤委員

ガイド講習者は3年後だと高校生。そういう人がOBということで出たほうがいいですね。

○事務局

はい。

○伊藤委員

わかりました。何人ぐらい英語部におられるんですか。

○事務局

小金中は15名です。

○伊藤委員

学年はばらばらで。

○事務局

そうです。11月13日に下半期の第1回を行いました。資料の5ページです。3年生が抜けて、今は少なくなって6名ぐらいです。20日に東漸寺で模擬実習を行います。例えば、「この木は何ですか」、「シダレザクラですよ」とか、そういった模擬練習を行う予定です。これが第2回です。

次に、資料の6ページの写真に出ているんですが、4月9日に模擬練習の第1回目を本土寺で組んだんですけど、このときは残念ながら雨だったので室内での座学になってしまいました。

○長江会長

よろしいですかね。

○伊藤委員

小金中学校英語部はもうちょっと、生徒がいなくならないように。

○事務局

そうですね、はい。

○伊藤委員

そこがちょっと盛り上がればいいなと。資料の9ページですが、ドミニカ共和国の御説明の中で、大枠の基本合意をベースに、実際にどういう種目でやるかという、まあ、当方の受け入れ体制のこともあるんでしょうけども、これを見ると、基本的に陸上競技が一番可能性があるなという感じがするし。ルーマニアとの兼ね合いがあるので、すぐじゃないかもしれませんが、できれば陸上で何かできるといいなと。

○事務局

資料の欄外に書いてあるのですが、陸上競技と柔道の事前キャンプにつきましては、広島県の北広島町が既に覚書を交わしております。

○伊藤委員

もう、じゃあ売れちゃった。

○事務局

はい。ちょっと難しいかなというところがございます。

○須田委員

このことで言うと、物理的に北広島はすごく遠いじゃないですか。で、向こうが選ぶかという問題も一方でまだ残っているのかなということが実はあって。

○事務局

それはあります。

○須田委員

来てみて、遠いから嫌だという可能性だってあるし。

○長江会長

松戸が東京に近いから。

○須田委員

仮に、同じような質問ですが、新聞の内容を見ると、新聞社によって結構強弱感がある。確実に来るよという表現をしているようなところと、いやいや、まだじゃないのという。そこの辺りの感触は行政としてどのように捉えているのか。これはもう確実に協定したんだから、オリンピックに出さえすれば絶対来るよということなのか。もちろんオリンピックに出られるというのが大前提で一つハードルとしてあるけど、出た上で来るのか来ないのかということなど、協定の部分ではどこまで決まっているのか。

○事務局

基本的に双方で調印してございますので、調印したのに関しましては、松戸市を第一に考えていただいておりますが、今後、これから細かいところを詰めていく中で、もしかしたら向こうの選手のパフォーマンスが100%発揮できるかというところの懸念が生じた場合には、万が一ということはあるかもしれませんが。ですが、基本的には松戸で行っていただけるというところで、受け入れ体制もそういう形で準備したいと考えてございます。

○須田委員

例えばここに書いてある水泳なんか、読売新聞では市長が渋い顔をしていたみたいを書いてあってちょっと難しいという表現がされている。そもそも論として、成り立たない協定も結ばれているという現象があるから、協定の信頼性というのがどこまであるのかというのが正直なところなのか。施設がこういうふうに改善されれば来ますよということになって、出るという前提の上で準備をしなきゃいけない。それによって、うちは2国による実施となるわけですから、両方一遍にできるのか、それとも競合するのか。その辺の距離感はどういうふうに考えているのか。

○事務局

水泳に関しましては、ちょっと懸念材料というか、かなりの改修が必要でして、現在ある運動公園のプールというのは50メートルという長さはございますが、国際基準で言いますと、深さが標準的には2メートル必要だというふうに言われてございます。現在の松戸の運動公園の深さは1.3～1.5メートルでして、相当大きい改修が前提として考えられてしまうので、現実的にかなりハードルが高いというところを認識してございます。

○須田委員

もっと言うと、一方では、例えば体育協会あたりから本格的なものをつくってよという意見もあるかもしれないし。この機に乗じてつくってしまえとかね。

○事務局

2メートルという深さになりますと、反面的にオリンピック後の一般的な利用に対して、例えばお子さんとか、そういう方に支障が出るというところが客観的にございまして、改修したことによって、逆に利用の仕方にかなり支障が出てしまう面がございまして。そこのかみ合いも検討して方針を出したいというふうに考えております。

○事務局

あくまでも松戸市の市営プール、市民向けですので、オリンピック向けにすると、今度市民が使えなくなってしまうのが非常に悩ましい材料でございまして。

○須田委員

水泳のプールはそういう実情なんでしょう。この陸上競技場であるとか体育館であるとかというのは、前提論として、コストをかけて直していかなければならないということになっていくんですか。

○長江会長

さっきのお手洗いとか。

○須田委員

その覚悟というがあるんでしょうか。

○事務局

先ほどのニュースでもコメントでちょっと出ていますが、まだ聞き取りが十分でないというところもございまして。選手の事前キャンプは本大会に向けてのパフォーマンスを上げるための目的でございまして、そこがかなえられないということだと、双方ともに何でここでやったのみたいなことになってしまいます。財政的にとか、どうしても制約はございまして、そこは話し合っ、できる限りの対応は考えたいというふうに考えてございまして。ですから、施設改善は少なからず必要だという認識はございまして。

○須田委員

あと、いろんな大学の先生であるとか、セノーさんがいらっしゃったりとか、施設だとか知恵とか場所とかそういうことを持っていた方がいらっしゃる中で、今後こうしてほしいとか、そういうものってあるんですか。

○事務局

そうですね。例えば事前キャンプを実施するに当たって、ハード面、施設改修もそうですけど、ソフト面とか、それは練習に際してサポートというのはどうしても必要になるというふうに、ほかの事前キャンプをやった自治体からレクチャーしていただいております。かなりマンパワー的なサポートが必要だとい

うところを聞いてございますので、例えば陸上に関してだと、各大学さんの競技を知っていらっしゃる、経験されていらっしゃる方の御協力を受けるとか、そういうことが受け入れ体制の一つになると思っておるんですが、まずはお話し合いから実践までをこれから取り組んでまいりたいということは一つございます。

あとは、岡本委員がいらっしゃいますけど、体育協会を始めとした各競技協会様の御協力がなければ運営等がなり立たないと思っておりますので、そういう関係機関の方の御協力も得ながら進めてまいりたいと思っております。

あと、できればセノーさんにお力をいただけるとすごく助かるなというのが、正直、実感としてございます。

○須田委員

あと、最後に1点だけ。文化プログラムの関係なんですけれども、beyond2020等も、本当は、最初は「オリンピックマークつけたいよね」みたいなところで進んできたんだけど、意外とオリンピックマークがつかなかったりするこのほうが多かったりするんで、その辺ってどうなんでしょう。

○太下委員

なかなか進んでいないんですよ。さっきもちろっとニュースの中でロゴが三つ出てきましたよね。御存じのとおり、公認というマークと応援というマークと、この二つは組織委員会が所管しているんですよ。ある意味、公認というのは本当に限定されていて、政府であるとか開催都市とか、オフィシャルスポンサーしか使えない。これだと全然オリンピックムーブメントは広がらないということで、応援というマークを組織委員会がつくったんです。ですから、本来この応援がかなり広く使われるということが理想的な状況だと思うんですけど、現状、組織委員会は割と応援もかなり厳しい感じでチェックをされているので、なかなかこの応援もとりにづらいという状況があるので、その状況を見て、組織委員会じゃなくて政府が beyond2020 というマークをつくって、これをむしろ普及させようとしていると。

ただ、今度 beyond2020 はまた別の課題を持っていて、組織委員会のマターじゃないので、オリンピックという言葉が使えないんです。beyond2020 は比較的とりやすいと思うんですけど、ロゴを使ったときに逆にこれ一体どういう意味があるんだろうかというところで、多分、普及にちょっとまた課題を持っているんですね。非常に悩ましい状況が今は出ているというのが実態です。

○須田委員

一応、12月にルーマニアのコンサートで実はオリンピックマークをとろうと思ったんですよ。でも、コンサート協力社の新京成がオリンピック関連スポンサーではないというのでだめだと。いろんな制約で、協力で新京成って入っち

やうとこれは落とせとか。それでなかなか実現しなかったりするんで、その辺の使い方がね。

○事務局

確かにハードルが高いという感じがあります。当然その協賛の会社の方のメリットや利益とか、そういうものは優先されるでしょうけど。実際、何か申請してもちょっと難しいと言われて、痛しかゆしとか。そういうところも広めるためのツールであると思うんですが、なかなか思っていたとおりの広がり方をされていないのかなという。

○太下委員

これは一応政府目標では、文化プログラムを全国で20万件やるということになっていますので、これがもし本当に実現化していくと、多分一つ一つチェックしてられない状況だと思うんです。そのときにうまく立ち回られたらいいんじゃないかなと思っています。

○長江会長

ありがとうございます。 それでは、尾崎委員のほうからお願いします。

○尾崎委員

一会社の代表としてコメントすれば利害が出てしまいますので。オリンピック全般の状況を我々の企業の活動の中で少し見ますと、東京の武蔵野の森、まさしく会場の一つが完成しました。きょうも全日本スケートの平昌オリンピック代表の選考会がそこで開催されて、こけら落としをします。そういうようなことで、徐々に実際の大会会場ができてくるという状況がいよいよスタートしました。先ほど出ました、ホストタウンの登録とかもほぼ締め切りがもう迫ってきているんじゃないのかなということですから、あとは登録が終わった後、本当にそれがキャンプにつながるのかというような、実際本当に来るのか来ないのか。先ほどの話がここ一、二年の間ぐらい一気に進むのではないかと、こんなふうに思っています。

その中で、幾つかの自治体はやはりこれを機に当然、デジタルマーケティングみたいなことでフェイスブックとかツイッターとか、そういうものを通じて行政の取り組みを積極的に発信しているようなところが多いのではないかなと感じました。どれだけの方が見ておられるかは別として、山形県村山市は積極的に行政がそれにかかわる内容を発信されている。メディアが一番まだまだ効果が大きいでしょうけど、Wi-Fiの環境整備とセットで松戸市もうまく活用することが必要じゃないかなと。

それから、マラソン大会に関して幾つか我々が協賛する場合、マラソンのほかの種目でオリンピックの新たな種目になるようなものをちょっと経験しようとか、例えばクライミングを少し体験してみようとかですね。何かそういうよ

うなことがマラソンの大会とかによってあるので、何か松戸市さんが実施されているイベントにミックスして、そういう応援する種目のようなものをうまく競技団体さんと取り組んで体験してもらおうようなこともいいんじゃないかなと。

それから、もう一つは環境整備ということに関して、ホストタウンの登録で来てもらえれば費用の半分ぐらい見るとか、都等の助成をうまく駆使してこのタイミングに整備を仕掛けておかないとなかなかオリンピック後の環境整備が難しいと思う。都等の助成を受けることは、一つ成功することで継続的に都等の助成が受けられるような傾向が今あります。何かうまく駆使してオリンピックに向けて整備をしていくということはもちろんなんですけど、継続的に、スポーツの環境整備を続けていくというレガシーはちょっと残しておくことが、行政にとっては非常に大事なポイントかなと思います。そういう視点で我々の営業マンがそのお役に立つのであれば、いろんなところでそういうお話し合いができたらと、こんなことです。以上です。

○長江会長

ありがとうございます。後々、スポーツ健康都市みたいな松戸のイメージアップになるようなということもつながるといことだというふうに思うんですけど、アスリートとしてどうですか。

○上場委員

先ほどのルーマニアの運動公園視察の案内があったと思うんですけど、あのときに、トイレ改修とか、ハンマー投げのバックネット、ああいうのとかの改修を依頼されたと思うんですけど、そういう要望というのは、もう絶対的にのむという方向になっているんでしょうか。

○事務局

そうですね。トイレに関しましては、やっぱり洋式じゃないとということと、施設のにもちょっと古いということもございますので、そこは積極的に考えたいと思っております。

○上場委員

それこそ覚書を交わしたけれども、来る、来ないみたいなどころがあるのであれば、そこというのはもう確実にマストでやっているのかなと。

あともう一点、僕もアスリートなので、東京オリンピック出場を目指してやっている者として、こういう17ページにあるような、僕も知らなかったような選手というのが実はたくさんいると思うんですよ。僕もアジア大会で金メダルをとっても、多分、松戸市の方は知らなかったと思います。

○長江会長

すみません。アピール。

○上場委員

そうですね。そういったところで、例えばフットサルの日本代表のキャプテンが新松戸にいたりですとか、今、府中アスレティックというチームに皆本晃さんという人がいたりとか、実は皆さん知られていなくて、すごく実績のある選手の方がいると思います。例えば松戸市にゆかりのある、在住であるとかというアスリートのコミュニティをつくって、アスリート同士の意見交換もそうですし、市とのつながりという意味で一つ何か立ち上げるといったことがあると、レガシーという意味では、かなりその先につながっていく。松戸市にゆかりのあるアスリートがより向上することによって、結果を残しやすくなっていくんじゃないかなというようなことを今一応考えています。以上です。

○長江会長

すごく大切な視点で。また、ハード面だけじゃなくて、ソフトもそういうことで、日大の橋口先生いかがでしょうか。日大松戸歯学部は、実は歯の病院だけじゃなくて、総合的なすばらしい病院でもありますので、医療も含めて選手団のサポートができるかと思うんですが。

○橋口委員

日大の松戸歯学部の病院、おっしゃるとおり総合病院ですので、対応できるかと思います。ただやっぱり毎回の会議でも懸念されている、実際、今、市内に4大学がありますが、この連携というのは実は進んでいなくて、これをどうやってやるかという。スポーツ科学の活用・推進というのがあるんですが、じゃあ、これはスポーツ科学の推進を伴っているのかなというのが、もう委員である私でさえちょっとわからない状況というのものもある。その辺を具体的に、恐らく文化的なプログラムはもう大分進まれているので、先ほど尾崎委員もおっしゃったように、これをきっかけに2020年以降、松戸市のスポーツが普及・発展のスタートとならなければ、恐らくこの後何も動かないんじゃないかなと思います。

あと、実はことし12月、ドバイで開催されるアジアユースパラリンピック競技大会というジュニアの大会、この中で松戸市の選手って何名いるか御存じですか。実はこれ2020年の選手だし、2024年の選手なんですよ。パラリンピック競技選手3名ぐらいが今、第1次エントリーしています。卓球の選手が2名ほどいたり、陸上の選手がいます。先ほど、パラリンピック競技選手の講演会が開催されている中で、パラリンピック競技に一つの落とし込みがあるのかなとちょっと希望はあるんですが、来年はアジアパラリンピック競技大会がジャカルタであります。当然、アジア大会のわけですよ。そうすると、ポスト2024年を考えたときには、このジャカルタなりアジア大会というのも一つのキーになるのかなと。今回、今まで文化的な部分が非常に手厚くなっているけど、ちょっとスポーツのところでは何か動きがあればなというのを期待します。

あと、今回ドミニカ共和国とルーマニアというのは、オリンピック競技だけということですね。

○事務局

そうです。

○橋口委員

なので、パラリンピック競技の選手たちは来ないということで。

○事務局

今回は、はい。

○橋口委員

あと、ちょっと質問なんですけど、小金中学校の英語部の子どもたちが頑張っているわかってもらえると。小金中学校以外にアプローチされていらっしゃるか。

○事務局

そういうのはこれからなんですけど、ことしモデル事業でやってみて、いろいろわかったことがあるんです。放課後の活動で、午後4時から約1時間ちょっとの時間を使って行っているわけなんですけど、そういうことを考えますと、中学校に英語部がないと非常に難しいんだなということがわかりました。それで、ほかに中学校で英語部のある学校というのが松戸第四中学校だけなんです。

○長江会長

小金中と第四中学校。

○事務局

はい。本当にそろそろ次年度のことを考えなければいけない時期になっておりました。今、モデル事業の教訓を踏まえて、次年度のことを考えているところです。ですから、ほかの学校ということになると、ちょうど場所的には四中というのは東の地区になりますので、東の地区の何か観光案内をやっているとか、そういう意味では、あちらも梨園ですとかブドウ園ですとか……。

○長江会長

あと旧齋藤邸とか。

○事務局

そうですね。そういったところがありますので、その辺のところは可能性としてあるのかなというふうに今考えているところです。

○橋口委員

高校生というのはどうです、今後。

○事務局

今やっている事業としては、中学生ということをやっています。今後については、現実的な意味で、実際専大松戸高校の英語部は素晴らしいですし、ほかの高校、やはり市立高校……。

○長江会長

市立高校に国際コースもあると思うんです。

○事務局

はい、国際コースもありますので。あと、市の事業として行うのであれば、市立高校が連携はとりやすいのかなと、そういうことなどいろいろと考えているところです。

○橋口委員

そうすると、大学にもさまざまサークルがあったり英語クラブがあるんですよ。中学生年代に限らず即戦力になるところを、もし3年後、そうすると高校生、大学生というところが一つ入ることによって、まだ市内の4大学連携ということをしていない状況ですので、何かそこを文化的に入って、恐らくみんなの拠点で文化の地区というマターがあるところの周辺中学校だと思うんですが。松戸で考えたときに、広く見ていただくと例えば意外と松戸のことを知らない、松戸歯学部の子でも戸定邸のことを知らない学生がいっぱいいるんですね。

○長江会長

行ったこともないからね。

○橋口委員

近くなんだけど、梨とか宇宙カボチャ、それをいい機会に逆に学習すればいい機会だと思いますので、ぜひそこを研究していただければと思います。

○事務局

あともう一つ情報なんですけど、大人向けの講座を生涯学習推進課で匠ガイド講座ということでやっております。観光協会さんのもとにやったんですが、こちらのほうは大人の英語班が12名、中国語班が4名、合計16名いらっしゃるんですが、募集したメンバーで来ていただいた方が、元JTBの添乗員でしたり貿易会社に勤めていた方がいらっしゃいました。リタイアしたばかりの意欲があり余っているような方、それでいて英語が堪能な方が今そういった講習を受けております。

○長江会長

何名ぐらい。

○事務局

それは合計で16名。英語12名の中国語4名でしたね。この間、松戸駅周辺の模擬練習もやったところなんです。こういったことの取り組みもありますので、ちょっと来年度以降こういったことも整理して、連携をとって松戸市全体を幅広い年代でやっていければなというふうにも考えたいと思います。

○橋口委員

そういった方々がリーダーになっていただいて、大学と企業の連携という部分も。

○事務局

もちろん大学の方は本当に大変な戦力だと思いますので、御協力していただける機会があればお願いしたいと思います。

○長江会長

ありがとうございます。全員の方々から御意見をいただきました。本当にさまざまな、そして、しっかり改善できるような御意見だったというふうに思います。市のほうも一生懸命努力していただいています。ハードの面では予算が伴う。それからソフト、文化面では、つなぐとか、連携とか、あるいは選手の方々のコミュニティとか、そういうものと情報発信を含めた形でさまざまな御意見がありました。本当にありがたいというふうに思っています。

今回は議題は特別にございませんで、委員の皆様、最後に何か発言したいことがございましたら、よろしく願います。よろしいでしょうか。

○尾崎委員

少しあります。すみません。

○長江会長

はい、願います。

○尾崎委員

種目とか、その国の意気込みによるんですけど、当然、事前合宿、直前の他にも前年には何らかの競技は日本でプレ大会をしてリハーサルを兼ねると。現状でいうと例えばルーマニアの選手たちがこちらに来たときに、何らかの交流の場をつくることは必要ではないかな。それは恐らくオリンピックの後に、強い選手は日本に来る機会があると思いますので、オリンピックだけに的を絞るんじゃなくて、もう前年ぐらいから、多分プレ大会が日本でいろんな種目で開催されると思います。恐らくパラの大会も日本でリハーサルと称してあると思うので、その辺は一つターゲットに置いてもいいんじゃないかなと。

○事務局

いろんな機会を通じまして、そういう関係をつくりたいと考えてございます。

○尾崎委員

恐らく直前合宿って一瞬で終わると思うんですね。

○事務局

そうですね。

○尾崎委員

そうすると、やはり1年前とか、そういうところからいろんなものが準備されたり、その選手団が足を運ぶ機会があったりとか、ちょっと助走期間みたい

なものを置いて、直前の事前合宿がこの松戸市にとって市民の記憶に残るような、その何か仕掛けが要るかなと。

○事務局

はい。ありがとうございます。

○長江会長

ありがとうございます。伊藤委員のほうは。

○伊藤委員

事前キャンプに絡むお話なんですけど、前回の会議で、自転車競技についてオランダがほぼなくなる見通しというちょっとネガティブな話がありましたが、もう完全にオランダについては消えたと。

○事務局

先月でしたか、オランダの現地視察団が千葉県に来たんですが、その中に自転車競技のロードとトラックに関して、南房総のほうとか、そういうところは視察されたんですが、松戸のほうには来られなかったことが一つ現実的にございます。前回お話しした以降、その後、先方から特段新しい情報というのがございませんで、前回と引き続きみたいなどの情報になってしまいうんですが、現地視察にも来られなかったので、現実的には松戸での事前合宿というのはいらないといったところがございます。

○伊藤委員

それならば、せつかく松戸にああいう施設があるので、オランダに別に固執する必要は全然ないので、オランダは県との関係で言い出したということなんですけど。ただ、競輪の有力な国で事前キャンプを探しているとか、そういう情報というのは一切まだ入ってこないし、こちらも求めていないし、もうこれ以上自転車競技をどこかほかの国と何かやろうという、今のところそういう検討はやっていないと理解してよろしいですか。

○事務局

姉妹都市である関係から、オーストラリアの自転車関係に打診した経過がございまして。ただ、オーストラリアも強豪国でございまして、国際規格の周長 250メートルで練習したいということで。

○伊藤委員

そこは日本には1か所しかないという。それにこだわったら……。

○事務局

そうなんですけど、先方としましては、同じような規格のところで事前にキャンプを張りたいという御意向がありまして、ちょっと難しいというような御返答をいただいた経過がございまして。

○事務局

5月にオーストラリアの自転車競技連盟に大使館を通じて問い合わせをしていただきましたところ、やはり250メートルと333メートルの違いで、使用する意向はないと。同じ理由でした。

○伊藤委員

じゃあ、もうしょうがないですね。

○事務局

ええ。強豪国はそこにこだわるんだなと思いました。

○事務局

感覚をつかむのが事前キャンプの主旨と思われるので、ちょっと難しいというような御返事をいただいているところです。

○伊藤委員

もう一点だけ。ちょっといろんな話が出たんですけど、江戸川を利用したボートとかカヌーの可能性もちょっと、そういうことが何か議論になっていたんですけど、その後一切出ていない。

○事務局 そうですね。昨年、オーストラリアによるカヌーとボートの現地視察後はお話がありません。

○伊藤委員

オーストラリアの話はなくなっていますよね。

○事務局

はい。たしか他県で決まったようです。

○伊藤委員

松戸市の現場を御覧になったんですね。

○事務局

はい。千葉県のスポートコンシェルジュという方のご案内で、松戸市に視察団が来られました。

○伊藤委員

私自身は別にボートもカヌーもやらないのですが、せっかくいい環境なので、これを機会に整備すると市民のスポーツという意味でも、2020年以降、いいチャンスかなと思っていたんですけどもね。

○事務局

キャンプ地に決定した自治体は、練習場と宿泊施設がつながっているという理由で選ばれたようです。

○長江会長

松戸の場合は、宿泊施設は。

○事務局

練習場と宿泊施設はつながっていない。直接つながっているからということ

で、向こうを選んだようです。

○長江会長

それは今、松戸駅東口に建てているホテル、そういったところでもだめなんですね。

○事務局

まあ、ちょっと離れているというところなんでしょうね。向こうがよりよい条件だったというふうに。

○長江会長

ありがとうございます。 それでは、皆さんよろしいでしょうか。

本日の会議は皆様からさまざまな御意見をいただきました。 次回の会議は来年の3月を予定しております。 日程が決まりましたら正式に通知をさせていただきます。

それまでの間も、ぜひ皆様方から御意見がございましたら、市のほうに直接意見を、メールでも結構ですし、さまざまな手段で情報を入れていただけたらと思いますので、よろしくお願いします。

それから、私も推進会議の会長なんですけど、でき得る限り、例えば議場のコンサートであったり、あるいは交流の場であったり、委員の皆様、さまざまな方々と御一緒に、直接ルーマニアであったり、あるいはドミニカとか、そういうような方々とも、ありがたいことに交流をさせていただいています。市のほうは積極的に推進していくという立場で御努力されているので、これにきょうの意見を含めた形で、ぜひ予算もきちっと予算だてをしていただいで、先ほどありましたように、お手洗いの件でも何でも、ちょっとでもよくなることが市民にとってもよくなるという点で取り組んでいただけたらと思います。

本日は本当にありがとうございました。